

【議事】定 33-1

(1) LNG 推進系飛行実証プロジェクトの開発状況について

JAXA の秋元敏男 LNG プロジェクトマネージャが資料 33-1 (LNG 推進系の開発状況) を説明した後、井口委員長から推進部会にて中間審査を行うことが宣言された。

井口：評価委員会での決定に照らし、本件はプログラムの重大な変更に相当するので、中間評価を行いたい。推進部会長のご意見を伺いたい

青江：できるだけ迅速に対応したい。

井口：開発には失敗が付き物ではあるが、原因をしっかりと究明し、しっかりと対応して行ってほしい。

説明者席には JAXA の有賀さんも控えており、宇宙開発委員の質問に備えているようであったが、JAXA に対する質問は何も無かった。推進部会には井口委員長、青江部会長、松尾委員の常勤委員が、多分全員出席するので、その時に議論すれば良いと考えているのか。

また、当然のことながら、常勤の委員には事前に説明が行われていることだと思う。したがってこの公開の席で質問する必要が無いと考えているのかも知れない。しかし、それであれば、非常勤の委員の存在感が薄れてしまう。定例会議がどんどん儀式化していることは由々しきことである。

本件が実質的に審議されることになる推進部会においても、山根一真委員は長年委員名簿に載っているにも拘らず、数年間一度も出席されていない。委員会に出席して意見を述べるより、

自身の著作で意見を述べるほうが意義深いと考えているのではないかと推測する。

宇宙開発委員会を意義深いものにするには、「宇宙政策」を策定することが最も効果的ではないかと思うので、是非ともそのような動きになってもらいたいものだと思う。ここで言う「宇宙政策」は「国家戦略」の次に位置するものであり、現在「計画部会」で審議されている「中・長期計画」の上に位置するものである。「準天頂衛星」とか「LNG 推進系」と云うプロジェクト名が見つからないと議論ができない方々が多いのは承知しているが、そのようなプロジェクト名が一切入らない「宇宙政策」を制定してもらいたいものである。